

### 第5回コミュニケーション講座

8月7日(土)に開催しました。

テーマは、手話(入門)。神奈川県中途失聴・難聴者協会の会員古川実利氏に講師を担当していただきました。前回同様、アイスブレイクで緊張をほぐし、復習をされました。今回は数字や単位、日付、曜日などの表現を教わりました。

また、現在、過去、未来という時の流れの表現方法について学びました。要約筆記も付いているので、文字で内容も確認でき、よかったという感想がありました。しかし、本当なら、実際に会って、話したかったという方もいらっしゃいました。手話は、コミュニケーションのための一手段ですから、画面で見ただけではなく、会話で使いたいですね。今は、コロナウイルス感染拡大を気にしないわけにはいきませんので、

### 補聴相談室から

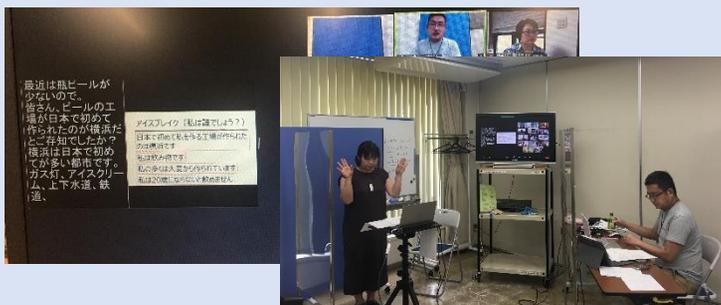
#### 補聴器の機能

～指向性について～

一般的に雑音は周辺全般にあることが多く、あらゆる方向から入ってきます。この雑音は、補聴器でききたい音声の邪魔になります。そこで「指向性」を機能させます。「指向性」は、特定の方向からの音をよく拾えるようにするものです。通常、話をする時は、相手は正面にいます。あるいは、音がした方向に顔を向けますので、結果として聞きたい音は前方から聞こえます。指向性は補聴器に複数のマイクを前後に付け、個々のマイクに入ってくる音を操作することで特定方向の音を大きくしたり小さくしたりできます。以前の指向性は、常に前方からの音を拾い、後方からの音は抑えるという単純なものでした。最近では、前方ばかりではなく、会話のある方向を自動で察知して、音を大きく、雑音のある方向からの音は抑えるタイプ(環境適応型指向性)のものも増えてきました。周囲の音が気になる時は、指向性を働かせるとききとりが改善するかもしれません。



いつか、気兼ねなく、会っておしゃべりできる日を夢見て、手話の腕を磨きましょう。



### 第7回コミュニケーション講座のご案内

日時10月2日(土)10:00～12:00

テーマ:きこえを助ける機器/便利な機器・ツール

See-Throug Captionsのご紹介

<https://forms.gle/jcjSvp2nEQJBqxTC6>

にアクセスするか、QRコードでも申込できます。



### 「ぴったり字幕」って?!

東京オリンピック・パラリンピックの放送を楽しめるように、NHKでは、さまざまなサービスを展開。その一つが「ぴったり字幕」

通常、生放送の番組だと、話している音声と字幕にタイムラグが出てしまいます。音声と字幕を合わせて視られるようにしたのが「ぴったり字幕」。その仕組みは、生放送を30秒前倒しでスタート。収録して30秒遅れで再生。その間に聞き取った音声を文字にする。時間になったら「映像と音声」に「字幕データ」を合わせて出す。そうすると、音声と文字がぴったり合うというわけ。9月5日まで「あさナビ」で実施。音声と字幕を合わせるのに30秒もの差が必要だったということだが、30秒といえば、短いようで結構長いですね。

当センターの事業についてのお問い合わせは

電話(0466)27-1911/FAX(0466)27-1225

メール [soudan@kanagawa-wad.jp](mailto:soudan@kanagawa-wad.jp) 担当 大本